

# 令和元年度 学校自己評価アンケート集計結果

\* 質問項目の前の数字は、質問番号である。

\* ①よくあてはまる ②ややあてはまる ③あまりあてはまらない ④全くあてはまらない から選び回答。①②を肯定的意見とみなし分析を進める。

経営目標	質問項目	有効回答数に対する割合			対象	①②の有効回答数に対する割合				H30	H29	各課・学年による分析と対応
		①②	③④	無効		1年	2年	3年	全体			
経営目標	1 学校の教育方針を踏まえた教育活動ができている	97%	3%	0%	教員				97%	91%	100%	やはり100%を目指したいところである。
	1 学校生活は全体的には、充実し、満足している	91%	9%	0.5%	生徒	94%	84%	95%	91%	89%	85%	1・3年生は特に高い数値である。多くの生徒が充実した学校生活を送っていると感じている。
	1 学校の教育方針は伝わっている	83%	17%	0.6%	保護者	78%	78%	89%	83%	74%	78%	今年度はHPに加え、Facebook、Instagram、twitterを立ち上げ、随時話題を更新した。浸透度はわからないが、数値が上がったのはその成果であることも考えられる。
	2 本校での教育活動に、充実感を持つことができている	82%	18%	0%	教員				82%	72%	80%	次年度からは数値が高くなったが、個々の教員が、より充実した教育活動ができるよう検討していく必要がある。学年を超えての情報の共有が大切である。
	2 玉野高校に来てよかったと思う	87%	13%	0.5%	生徒	92%	80%	90%	87%	83%	81%	全体的に年々数値は高くなってきているが、さらに100%に近づけるために、生徒に達成感や自己肯定感の持てる取組を進めなければならない。
	2 子どもを玉野高校に行かせたことに満足している	95%	5%	0%	保護者	95%	95%	94%	95%	86%	89%	ほとんどの保護者が好意的な感想を持っており、今後も維持していきたい。
「熱く 温かく いきいきと」の実践の徹底	3 教室の学習環境整備に努めている	85%	15%	0%	教員				85%	94%	94%	例年に比べて低くなっている。やはり多忙感や煩雑さが原因であると考えられる。助け合える教員集団でありたい。
	3 教室は勉強しやすい環境である	84%	16%	0.5%	生徒	87%	84%	81%	84%	77%	70%	例年に比べて高い数値であるが、3年生の一部が2学期以降に進路が確定し、意欲の低下により環境が乱れていると感じる。
	4 自分から進んで挨拶をしている	81%	19%	0.5%	生徒	84%	71%	89%	81%	80%	82%	HR委員の「先言後礼」コンテストにより、挨拶への意識は高まっていると思うが、自発的でない生徒が20%ほどいるのが課題である。
	5 学校行事に積極的に参加している	85%	15%	0.5%	生徒	85%	81%	88%	85%	85%	81%	多くの生徒が行事に積極的に参加し、満足に感じている様子が見られる。特に3年生の数値が高い。最上級生として行事に主体的に取り組み、充実感が得られたことが数字に表れている。
	6 学校行事は楽しく、満足している	91%	9%	0.5%	生徒	91%	89%	93%	91%	89%	85%	生徒以上に学校行事に満足しているという結果になっている。今後も保護者が参加し、満足してもらえるよう行事を行ってきたい。
	3 学校行事の内容に満足している	94%	6%	0%	保護者	93%	93%	94%	94%	83%	89%	100%を目指したい。また授業だけでなく、普段の学校生活においても身だしなみ、言葉遣いを意識した生活を送らせた。
	4 授業でも服装指導・言葉遣いの指導を行っている	88%	12%	0%	教員				88%	91%	91%	ほとんどの生徒が服装や言葉遣いには気を付けて生活している結果ではあるが、服装の乱れ等はなくすように指導していきたい。
	7 服装、頭髪、言葉遣いには気を付けている	93%	7%	0.5%	生徒	97%	88%	95%	93%	95%	91%	チームによる授業力向上の取組の成果が現れていると言える。今後も授業力向上を常に意識していきたい。
学力向上と進路実現	5 指導方法を工夫し、分かりやすい授業に努めている	97%	3%	0%	教員				97%	100%	97%	やはり家庭学習習慣が小学校→中学校→高校と積み上がっていないことが挙げられる。週末課題や日々の予習・復習指導も行っているにもかかわらず、生徒の取り組みは、受動的でその場しのぎのように感じる。折に触れて、達成感の持てる取組を模索したい。
	8 課題や予習、復習など、家庭学習の目標時間は取れている(学校の授業以外)	66%	34%	0.5%	生徒	64%	55%	79%	66%	66%	57%	総合的な探究(学習)の時間での取組や進路講演会等による成果で、ほとんどの生徒が将来を考えているという結果となっている。保護者の数値は昨年度に比べ高くなっており、今後も情報発信に努めていきたい。
	4 子どもは、家庭学習の習慣が身に付いている(塾等も含む)	60%	40%	0.6%	保護者	53%	53%	69%	60%	55%	59%	信頼できる教員や友人が増えてきていること、スクールカウンセラーの親身な姿勢が高評価を得ていると思われる。
	9 進路や将来について自ら考えようとしている	90%	10%	1.0%	生徒	83%	91%	97%	90%	91%	85%	昨年、一昨年よりも数値は高いが、まだまだ数値が高いとは言えない。生徒への徹底や、HPやSNSでの情報発信もしっかりしていく必要がある。
	5 子どもは、進路や将来について考えている	85%	15%	0%	保護者	77%	77%	96%	85%	73%	77%	新しい大学入試制度にも求められているため、ほとんどの教員が社会貢献活動への取組を啓発している。
	10 学校で困ったことがあったときに、校内に相談しやすい人がいる	85%	15%	0.7%	生徒	81%	83%	90%	85%	83%	78%	地域でのボランティア活動が多く求められており、昨年同様多くの生徒が参加し、達成感を感じたことがうかがえる。
	6 学校には、子どもが相談できる人や場所がある	88%	12%	0.3%	保護者	84%	84%	92%	88%	76%	72%	自分の活動が「社会貢献活動」であるとききちんと認識できていない生徒もいるのだと思う。生徒に対する啓発活動も必要である。
地域等との連携	6 ボランティア活動に関わりが持てるように指導している	91%	9%	0%	教員				91%	78%	69%	昨年、一昨年より数値は高いが、まだまだ数値が高いとは言えない。生徒への徹底や、HPやSNSでの情報発信もしっかりしていく必要がある。
	11 社会貢献活動やボランティア活動をした後、「やってよかった」と感じる	92%	8%	0.7%	生徒	89%	92%	95%	92%	92%	82%	地域でのボランティア活動が多く求められており、昨年同様多くの生徒が参加し、達成感を感じたことがうかがえる。
	8 玉野高校の生徒は社会貢献活動やボランティア活動に積極的に取り組んでいる	88%	12%	0%	保護者	84%	84%	94%	88%	85%	92%	自分の活動が「社会貢献活動」であるとききちんと認識できていない生徒もいるのだと思う。生徒に対する啓発活動も必要である。
	12 地域のために役立つ活動をした	83%	17%	1.2%	生徒	75%	80%	94%	83%	85%	74%	昨年、一昨年より数値は高いが、まだまだ数値が高いとは言えない。生徒への徹底や、HPやSNSでの情報発信もしっかりしていく必要がある。
校内支援体制の確立	7 教員間のコミュニケーションはしっかり取っている	85%	15%	0%	教員				85%	97%	91%	昨年、一昨年より数値は高いが、まだまだ数値が高いとは言えない。生徒への徹底や、HPやSNSでの情報発信もしっかりしていく必要がある。
	9 (自分は)過剰な勤務負担を感じていない	70%	30%	0%	教員				70%	50%	54%	会議の精選や時間短縮等により、負担感が減っているのではないかと。しかし、業務の平準化、抜本的な働き方改革が今後も必要である。

## アンケート回答率

### 生徒

	1組	2組	3組	4組	計	在籍	回答率	(H30)
1年	31	34	34	30	129	136	95%	98%
2年	39	36	40	35	150	155	97%	97%
3年	28	49	33	35	145	151	96%	96%

### 保護者

	1組	2組	3組	4組	計	在籍	回答率	(H30)
1年	28	30	22	23	103	136	76%	89%
2年	28	30	22	23	103	155	67%	86%
3年	28	50	34	33	145	151	93%	58%

### 教員

100%	100%
------	------